

輝く未来の海のために

静岡市内中学校

本田 さん

「二〇五〇年の海は、魚よりもごみの方が多くなるかもしれない。」私は海のごみ拾いをするボランティアに参加したとき、この言葉に大きな衝撃を受けた。それと同時に、海の未来に少し不安を感じた。私のごみ拾いをした海には、見たことのないほど多くのごみが落ちていた。ペットボトル、大きなプラスチックかご、漁のネット、缶、発泡スチロール、瓶、そして大量のビニール袋。一時間ほどごみ拾いをしただけで、十個以上の満タンになったごみ袋ができた。それでもまだまだあるごみを見て、私は虚しい気持ちになった。

そのとき、ニュースで話題になっていた、海のプラスチックごみについて話を聞いた。ビニール袋を飲み込んでしまって、命を落とす生き物がいることを知り、これは大変な問題だと思った。生き物のことなど気にもせずどんどん海を汚す人間は本当に勝手だ。海にごみを捨て続けた結果、関係のない海の生き物に悪影響を及ぼしてしまっている。この状況は変えることができるのだろうか。

プラスチックは軽くて丈夫で加工しやすく耐久性もあり安いいため、様々な所で利用されている。使い捨てのペットボトル、レジ袋、商品

のパッケージなどがプラスチックごみの量を増やす原因になっているそうだ。プラスチックごみの厄介な点は、「自然分解されにくい」という点だ。一度海に入ったら、海底に沈んだり、海岸にうちあげられたり、水面や水中を浮遊したり。長い時間が経ってもプラスチックごみは自然と消えることはなく、海中にたまってしまふのだ。今、海中にはどれほどのプラスチックごみがあるのだろうか。年間少なくとも八〇〇万トンものプラスチックごみが海に流れ込んでいるという。それが何年、何十年と積み重なったら、魚よりもごみが多くなる時代が来るのかもしれない。でも私は、そんな未来の海は見たくない。私は改めて未来の海に不安と危機感を覚えた。

「最近マイクロプラスチックという、目に見えないプラスチックが海に存在していて、問題視されています。」

私の耳に飛び込んできた「マイクロプラスチック」という単語。気になって調べてみると私はとても怖くなった。五ミリ以下のプラスチックをマイクロプラスチックといい、これはすでに魚などの海の生き物の体内に蓄積されていることが分かった。さらに、魚を食べる私達人間にも蓄積されている可能性があるというのだ。マイクロプラスチックには、有害物質が吸着されている。目に見えない有害なものがあるのまにか自分の体内に蓄積されていたらと思うと心配になってくる。しかし、私達人間が捨てたプラスチックごみが、私達人間の健康を害

しても、「自業自得」と言うしかない。

海のプラスチックごみ問題についてあなたはどう思っただろうか。

私は、美しい海、多様な生き物、人間の健康を保つためにも、なんとかこの状況を改善しなければいけないと思った。この作文を読んでいる人の中には、今の状況を改善したいと考える人もいれば、自分には関係ないと考える人もいるかもしれない。しかし、日本はこのプラスチックごみ問題に国際的な責任を持たなければいけない。なぜなら、日本が一年で海に流したプラスチックごみは先進国の中で二番目に多いからだ。もちろん日本だけの責任ではないが、「自分には関係ない」と他人事のように見て見ぬふりをするのは、日本人としてあるべき姿ではないと私は思う。もっと多くの人がプラスチックごみで海を汚していることを自覚し、問題に正面から向き合う必要がある。

そのためにまず、様々な年代の人に海のごみ拾いのボランティアに参加してもらいたい。海の状態を見て、聞いて、体験して、知ることができ、関心を持ってもらえるとと思う。私も積極的にボランティアに参加し、海を守る活動を続けたいと思う。ボランティアに参加することで、自分の中で少しでも変化があってくれれば嬉しい。

次に、今から始められる簡単なことを実践してほしい。ポイ捨てをしないことはもちろん、落ちているごみは必ず拾う、リサイクルをするなど、本当に簡単なことで良い。また、使い捨てプラスチックの利

用自体を減らすために、マイボトルやマイバックを活用してほしい。

手軽に使える分、手軽に捨てられてしまうプラスチック。私は、世界中の人が未来の海について考えるべきだと思う。私にはまだ、未来の海がはっきりと見えない。未来は良い方向にいくのか、悪い方向にいくのか。それを決めるのは、今を生きる私達の行動だ。一人一人が日常生活の中で意識して行動することが、美しく豊かな海をつくる第一歩になる。あなたも、その「第一歩」をふみ出しましょう。

「輝く未来の海のために」